

## 著書紹介

# Academic Library

著者自らが新刊を紹介します。



### 「チャップリンを観る・そして『ローマの休日』へ（講義録）」

文化創造学部教授 吉村英夫

▶A5判変形 / 272 ページ / 草の根出版 / 2,200 円 + 税 / 2008.1.31 発行

▶本学文化創造学部で7年間、三重大学で9年間に講じたチャップリン論を、学生の映画鑑賞短評をまじえてドキュメントしたもの。天才喜劇映画人の人と生涯を、数本の映画を鑑賞しながら考察する。最後にチャップリンが、ヘプバーンの「ローマの休日」につながることも論ずる。



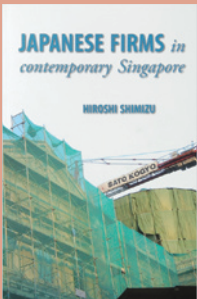
### 「心理学へのファーストステップ」

コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科助手 安田恭子

(編著：羽成隆司、河野和明)

▶A5版 / 170 ページ / ブレーン出版 / 2,200 円 + 税 / 2008.4.25 発行

▶心理学に興味を持ち始めた人にとって分かりやすい「教科書を読む前に読む本」。グラフや表のほとんど出てこない読み物としての心理学の入門書。つきあう、恋する、育つ、学ぶ、記憶する、悩む、癒すといった身近なテーマに限定され、著者は「テーマ6 悩む」を執筆した。



### 「Japanese Firms in Contemporary Singapore」

現代社会学部教授 清水洋 (単著)

▶ 22.7 × 15.1 cm / 282 ページ / シンガポール国立大学出版局 / US \$25 / 2008.7 発行

・ハワイ大学出版局 / 近刊

▶本書は10年前に英国の学術出版社、ラウトレッジ (Routledge) から刊行された専門書の続編である。外交文書、政治家・政府高官の未刊行スピーチ、聞き取り・アンケート調査、メディア資料、膨大な数の学術論文・専門書等を基にして、独立後のシンガポールにおける日系企業 (ゼネコン、百貨店、製造業等) の進出動機、経済活動の実態、アジア・グローバル戦略等を分析・考察。主要な分析ツールとしては、ダニングの折衷パラダイムを用いた。



### 「『依存』する英米文学」

文学部講師 小久保潤子

(編集責任者：森岡裕一、堀恵子)

▶A5判 / 248 ページ / 英宝社 / 2,600 円 + 税 / 2008.8.25 発行

▶「領域を拓く英米文学論考」。本書には薬物依存から人間関係全般にいたる幅広い概念である「依存」をテーマに多角的に考察した論文が収められており、依存・共依存・脱依存の視点から英米文学と「依存」の関わりを自由闊達に論じたフロンティア研究となっている。著者はアメリカ文学の古典作品におけるジェンダー構築の問題を共 / 脱依存の観点から再考した。